March 2013

千里地理通信

関西大学地理学研究会会報　第68号

Newsletter of Geographical Institution, Kansai University

柿本典昭先生を偲んで

橋本征治

去る８月３日，柿本典昭先生が逝去された。享年83歳であった。

柿本先生は1928年（昭和３）に北海道函館市でお生まれになり，1949年に弘前高校から京都大学文学部へと進まれ，1952年に同史学科地理学専攻を卒業し大阪府立天王寺高等学校で教鞭を執られた。1955年には金沢大学に移られ，爾後26年余にわたって同大学で教育・研究に従事された。そして，1981年の秋（10月１日付け）に関西大学教授に就任され1999年３月に定年退職されるまで，足かけ十九年にわたって関西大学で地理教育と研究に邁進され，関大地理の充実・発展に尽力された。改めて，大いなる敬意を払うとともに心より感謝を申し上げたい。

先生の研究分野は，大きくは日本の漁村・漁業研究ということになるが，とりわけ日本海沿岸漁村の研究をよくされた。そうした研究の成果を主著：『漁村の地域的研究――水産地理学への道標――』大明堂1975年刊（漁業経済学会賞受賞），『漁村研究』大明堂1987年刊などとして大きく纏められ，広く学界に寄与された。学会活動にもご熱心で，特に専門分野である漁業経済関係の学会では，西日本漁業経済学会（現地域漁業学会）の会長を務められるなど，重要な役割を担われた。

個人的な思い出を交えながら先生の人柄を綴り，故人を偲ぶ縁とさせていただきたい。小生と柿本先生との初めての出会いは遙か昔のことで，松山で開催された日本地理学会大会にコメンテーターとして参加したときのことであったと記憶している。初めての経験で落ち着きの無かった小生に比して，同じくコメンテーターをつとめられた先生のコメントは非常に的確で，その物言いや姿勢は落ち着いていて堂々としていた。それが，まだ若くて不慣れな筆者が最初に受けた先生の鮮やかな印象であった。後年その方と職場を同じくし，多くのことを学ばせて頂くことになろうとは，当時は思いも及ばなかった。

柿本先生は大変お話し好きであるとともに聞き上手でもあった。上から目線ではなく，常にわれわれと同じ目線に立って語りかけ，また心優しく耳を傾けもされた。そんなところから，われわれ年下の者や学生にとっては気軽にお話しさせていただける先生であった。学生には，時に物言いは穏やかだが厳しく諭されたりもした。それだけに，学生にとっては親しみやすい先生であるとともに信頼のおける先生でもあったことは間違いない。その辺の様子は千里地理通信40号（柿本先生の御退職記念号）に41人もの卒業生によって先生からのさまざまな学びや先生との触れ合い，先生のグルメ振りや仕草・口癖，あるいは楽しい課外授業の様子などが披瀝されていて，先生の人柄がよく偲ばれてほほえましい。

その記念特集号で，先生はハイドンの交響曲45番「告別」の演奏に託して，恙なく退職を迎えられたことを素直に喜ぶとともに，静かなるご退場を望まれたことを記しておられる。いかにも先生らしい退きの心情の吐露であった。そして，この度は誠に悲しい突然の旅立ちに，深い喪失感と悲しみに包まれているが，先生のお気持ちを忖度して交響曲45番を胸に静かにお送りしたい。ご冥福を心よりお祈りします。

（本学名誉教授）

Contents

Page 1 ……
巻頭言
柿本典昭先生を偲んで
橋本征治

Page 2-3 ……
柿本典昭先生
―追悼の辞―
卒業生

Page 4 ……
実習調査報告書
島田市での実習調査
細野祐樹

Page 5 ……
秋の日帰り巡検
京都日帰り巡検
山本佳代子

Page 6-7 ……
研究ノート
遼寧省における多民族共生地域の食文化
―漢民族・満州族・朝鮮族の独自性と融合化―
李　巍

Page 8 ……
学窓から
地理学というパスポート
奥野晶士

Page 9 ……
院生・学部生の業績
(2012.1～2012.12)

Page 10-11 ……
教室だより

Page 12 ……
随想
「伝統」とは何か
山本俊一郎

Page 4-5,8-9
2012年度卒業生・修了生からの一言

柿本典昭先生 ― 追悼の辞 ―

柿本先生の人物記憶力

ご退職後も学会などでお目にかかり，私の顔を見るや否や同級生のＦ君やＩ君，Ｔさん，Ｈさんの名前が出てきて様子を聞かれた。自分も教員となってわかったことであるが，ゼミ生の同級生や前後の学年が誰かなど，こんがらがっている。一度，先生に聞いてみようと思いながらも，最後にお会いした岡山での「河野通博先生を偲ぶ会」(2010年9月26日）でも昔話をして楽しいひとときを過ごして終わってしまった。永年のご指導とご厚情に感謝します。

貝柄　徹（大手前大学教授）

柿本先生との四半世紀

柿本先生と私の出会いは，今から25年前。当時私は，小学生の子を抱え子育て真っ最中でした。そんな中，先生は修士論文だけでなく，生活面の相談にも応じてくださいました。その後10年余。夫の転職，子どもの受験，広島への引っ越し等がありました。先生はいつも私を気にかけ，陰になり日向になり支えてくださいました。先生は私にとって研究の師であり，人生の師でもあります。

お別れの言葉は言いたくありませんが，先生，ありがとうございました。そしてさようなら。

片上廣子（1990年度博士課程後期課程単位取得）

柿本先生を偲ぶ

私が関大に入学して地理学教室の門をたたいたのが昭和56年４月，ほぼ柿本先生が関大に赴任されたのと同時期でした。卒業して28年になりますが柿本先生の思い出は尽きません。３年時の浜松市での地理学実習では柿本先生と行動を共にするグループに入れて頂きました。日本楽器，ヤマハなどを見学して回りました。案内に当たっていただいた妙齢の女性にくっついて，とても楽しく実習したことを覚えています。卒論でも本当にお世話になりました。私は卒業して今の証券業界に飛び込むことになり，無我夢中で仕事に取り組んでおりました。そうした努力が実り好成績を収めていると，数年後先生から電話が入りました。当社の人事担当者から毎年「『先生の教え子で優秀な学生はいませんか？』と言ってくるので私も嬉しいよ」とのお言葉でした。

お世話になった先生への恩返しと思って現在も職場の第一線で奮闘しております。この15年間は首都圏で仕事をしていましたが，昨年末に故郷三重に異動になりました。思い出深い大阪に少しだけ近くになりました。ひさしぶりに地理学教室の方々と酒を酌み交わしたい思いになりました。先生，これからが本当の恩返しですから。

山田敏美（1985年度卒業）

柿本先生の笑顔そして優しさ

学生時代，先生の研究室でお茶を飲みながらみんなでお喋りすることがとても楽しみでした。先生は誰でも大歓迎で，先生の周囲には，いつも笑顔があふれていました。一緒においしいものを食べに行ったり，卒業旅行に同行していただいたり，先生には大変かわいがっていただき，そして，お世話になりっぱなしでした。

昨年の７月に金沢で先生にお会いし，昔のことを語りあったのが，先生との最後の思い出になってしまいました。

柿本先生，ありがとうございました。先生の笑顔，大好きです。

六辻（庄山）あかね（1990年度博士課程前期課程修了）

柿本先生の想い出

柿本先生を表す言葉は，「グルメ」と「寛容」だと思います。先生は，非常に厳しい一面をおもちでしたが，お世話好きで，美味しいものをこよなく愛していらっしゃいました。

特に，思い出深いのは，先生と同級生２人で京都の湯葉の専門店に行き，３人で大変珍しい湯葉のフルコースを堪能したことです。当時のことを思い返すと，先生はいつも幼い学生のたわいない話に耳を傾けてくださいました。先生は，寛容の心で学生に接してくださいました。歳月を経て，ようやく，そうしたことのありがたさが身にしみます。この場を借りて感謝いたします。

岡光　信子（1990年度博士課程前期課程修了）

坤輿の会のことなど

柿本先生は，研究室に常に各地の銘菓を常備され，訪ねてくる学生に振る舞われていた。そんな茶話会の延長上で，私の学部３・４年のころ「坤輿の会」という読書会が開かれていた。文献はサウアー（Sauer, C.O.）の著作であったが，書名は思い出せない。というのも英語の輪読会は多分に建前で，実際は先生を囲んで毎週お茶と銘菓を頂き，何週間かに１度は梅田のエスニック料理店へ繰り出す気楽な集いであったからだ。おかげでサウアーの書名は忘れても，銘菓とスペイン料理にはかなり詳しくなった。ご冥福をお祈りいたします。

歳月を経て，そのことのありがたさが身にしみます。この場を借りて感謝いたします。

三木理史（1990年度博士課程後期課程中退）

さよなら柿本典昭先生

暑い夏の日，柿本先生に別れを告げる北陸路へ旅立つ。通夜の日，金沢城址や繁華街を車窓にみながら，先生がおられた場面を想像する。2008年９月15日，柿本先生傘寿祝賀会で語られた「あと５年は大丈夫だよ」が心にひびく。

告別式の日，眠るが如く先生が「よく来たね」と笑ったようにみえた。金沢時代の教え子清水静志先生の墓参にお連れできなかったことが心残りであるが，雲の上で再会を果たし，つきない話に宴酣を想う。さよなら，柿本先生。

角　克明（1997年度博士課程後期課程単位取得）

思い出すこと

託されたこと。これは口外できない。

要請されたこと。関大地理における北海道人会の開催。とうとう実現できなかった。もう少し数と機動性が欲しかった。

提案されたこと。研究室にお菓子を置いておくこと。なるほど学生が集まってくる。だが，どうしてだろう。男子学生ばかり。きっとお菓子の選択がまずいのだ。

思い出すこと。柿本先生のお人柄が滲み出ることばかり。合掌。

矢嶋　巌（1997年度博士課程後期課程単位取得）

結い

柿本先生のご退職にあたり綴った拙文では大学院進学以降に先生との交わりが増した旨を記した。しかし今思い返すと，ご退職以降によりお世話になってきたことに気づかされる。その最たる点は，先生にそのような意図はなかっただろうが，現在の配偶者との接点を提供してくださったことである。結婚や長男誕生の報告などで訪れた際には暖かく迎えてくださり，その都度金沢在住の同級生や後輩とともに酒席を囲んだことが思い出される。私が授かったのと同様に，きっと先生はさまざまな形で人と人とを結ってこられたのだろう。

訃報に接し，帰る場所を失った思いである。

水谷彰伸（1999年度博士課程後期課程単位取得）

追悼　柿本典昭先生

５年前に関西学院大学で開催された人文地理学会大会の帰りに，西宮北口駅でお別れしたのが図らずも最後になってしまいました。その前年の冬に，元田茂充君，内藤善太君と共に先生のご自宅へお伺いし，亡くなられた奥様のご霊前にお参りした日のことを思い出します。大学，大学院を通じてご指導いただいた先生が突然亡くなられたのは大変さびしい限りですが，お別れの祭壇に飾られたご遺影から，穏やかな晩年を過ごされたこととお察しします。

柿本典昭先生，どうぞ安らかに。

水田憲志（2000年度博士課程後期課程単位取得）

柿本先生との思い出

柿本先生には大学院入学以来，最後の弟子の一人としてゼミや講義のほか，地域漁業学会でもご指導いただきました。その間，修論提出日の「エッ！元田くんがですか！？」事件などご迷惑もおかけしましたが，先生はいつもにこやかなお顔で受け入れて下さりました。また，関大在職時にお住まいだった桂駅近くのビアホールに連れて行ってもらったことや，ご退職後に金沢のお宅へお邪魔したことなど，先生との思い出は尽きません。

先生からは研究面でまだまだ教えを乞いたいことも多かったので，突然のお別れが残念でなりません。柿本先生のご冥福をお祈り申し上げます。

元田茂充（2000年度博士課程後期課程単位取得）

柿本先生の思い出

柿本先生からは，前期課程１年次に地理学史と人文地理学を講義頂きました。授業では，最初に少々雑談の後に，「今日のお話は」という言葉を起こし文句に，地理学の世界へ誘（いざな）って頂きました。ある日先生が，今日は前期最後の授業だから，ちょっと皆で御飯を食べようということになり，大学前通りにあるボルカノへ，講義を受講している数名と一緒に行きました。地方で生まれ育った私は，イタリア料理？というと，ケチャップの薄い色のついたスパゲティを基本的に思い浮かべますが，お洒落なボルカノでのイタリア料理は私にとってハレであり，しかし同時に先生のお人柄と相まって，パスタという名の味のついた和食を食べたような妙に懐かしい思い出です。

先生は，1998年に入学した私達の学年の講義を最後に，定年で御退職されたのですが，私が後期課程の２年になり，2001年に学会発表を秋田大学の会場で行った時に，聞いて頂くという機会を得ました。私の発表は，朝一番目９時の露払い的な順番でしたが，柿本先生と，同級の浮田先生が，向かって左側，真ん中やや手前に並んで居られて，私の拙い説明を聞いて頂いたことを今でもよく覚えています。あの時発表したことは，私の懐に抱かれて長い年月が経ちましたが，発表した内容を基に調べてきたことがこの度ようやく文字になります。もっと早くにまとめられたらとは思いますが，以前に聞いて頂いたこと，このようになりました。相変わらず拙い内容ですが，先生，そちらで暇な折にでも御覧になってください。合掌。

片岡　健（2002年度博士課程後期課程単位取得）

感謝を込めて

桂離宮の紅葉と湯葉料理の昼食。柿本先生との大人の遠足第一回目は，98年11月下旬にありました。昼間からお酒も入り，ほろ酔い気分で散策をしました。

同年春に社会人で入学した私は，先生の講義を受けたのは半年間だけ。同じく社会人学生の仲間と共に，先生と出かける機会に恵まれ，大学外での思い出が数多くあります。

ご一緒できた豊かな時間に心から感謝しています。

谷中麻里（2002年度卒業）

ここにしましょうか

私と柿本先生との交流は大学３年からで，学生時代，何度も大学内の喫茶店でケーキをごちそうになりました。関大退職後，先生は金沢で悠々自適の生活を送っておいでました。私も同じ金沢に住んでいたため，時々喫茶店でお話をしたり，先輩方や同級生と一緒にお食事をさせていただきました。街中でふと見つけた喫茶店を見て「ここにしましょうか」とにこやかにおっしゃった姿が印象的です。先生とお話し，非常にご縁があると感じました。

先生が参加していた静岡の巡検の案内を，私の祖父がしたことがあり，また，私が現在勤務するNPO法人のプログラムに，先生のお孫さんが参加されました。何世代にもわたり，ご縁のある先生とこうしてお別れしなければならないのは非常に残念です。とはいえ，明るく楽しく語る場が好きな先生でしたから，今後も，先生との思い出を心に留めつつ，皆さんと楽しく交流しながら人生を過ごしていきたいです。

内藤善太（1999年度博士課程前期課程修了）

2012年度 卒業生・修了生からの一言

荒巻祐貴
出会えた方々がたくさんいて，地理学教室に入って良かったです。思い出を大切にします。先生方，先輩や同期の皆さん，ありがとうございました。

伊地智　遥
できるなら地理学教室の皆と一緒にいたいと思います。それだけ充実した日々を過ごすことができました。皆のことも一緒に行った様々な地域のことも一生忘れません。

入江真史
地理学教室のアットホームでアクティブな雰囲気がとても楽しかったです。他の学部や専修では味わうことのできない体験をありがとうございました。

梅田真吾
地理学教室で３年間のびのびと学ぶことができました。おそらく好きなことを好きなだけ学べる時間はこれから無いので，新しい生活でしばらく苦しむことになるでしょうが頑張ります。先生方にはお世話になりました。

江口花菜子
先生にも仲間にも恵まれ，楽しい３年間を過ごすことができました。春の巡検や呉での実習など，ひとつひとつがいい思い出です。本当にありがとうございました。

奥野晶士
地理学での一番の思い出は，広島県呉市での実習調査です。アンケート用紙を自分達でつくり，多くの方々からお話を聞くことができました。地理学のおかげで，行動派になることができました。先生方，先輩方，同期のみんなに恵まれて，とても楽しい大学生活を送ることがだきました！

実習調査報告

島田市での実習調査

細野　祐樹

「今年の巡検先は静岡県島田市です。」そう聞いて，多くの学生は島田という場所をイメージする事がなかなか難しかったことに違いない。東京出身の私は，静岡が東京までの通り道になるため窓から見る事はあったが，関西出身の人は静岡を通る事，ましては来る事も無くなじみがまったくない場所であったに違いない。静岡といえば富士山，お茶！そういうイメージを元に島田市の実習準備を行った。３学年16名，院生５名，教員２名の計23名で農業自然班・市街地班・コミュニティバス班・歴史班・そして私が所属した観光班の調査作業を行った。５日間ともに晴天に恵まれたのはなにより担当教員の名前からもわかるように地理学教室に晴れ男，晴れ女が多かったからであろう。野間晴雄先生ありがとうございます。

今回の実習では【農業班】（川根本町の農茶業と自然環境）【歴史班】（金谷町の歴史変遷）【コミュニティバス班】（島田地区におけるコミュニティバス利用と生活行動）【市街地班】（島田地区の土地利用と聞き取り調査）そして私が属す【観光班】（島田市の合宿誘致と静岡空港）の計５班に分かれて調査することとなった。私は観光班に所属していたので，観光班，とくに静岡空港の調査を中心に書かせていただくことにしたい。

島田市では，現在大学や実業団の運動部をターゲットにしたスポーツ合宿誘致に力を入れている。また，島田市には2009年に開港した静岡空港もあり，この二つに注目して【スポーツ合宿】【静岡空港】を調査した。調査方法は静岡空港では２日間にわたり利用者に対してアンケート調査を行った。

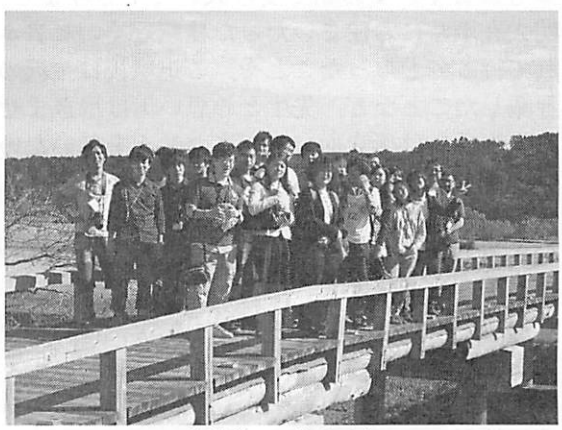
私たち観光班の誰もが過去にアンケート調査を行った経験はなく，「平日だし利用者がいなくてアンケートが取れなかったらどうしよう」，「アンケートを答えてくれた人に対して粗品なども用意してないし，断られたらどうしよう」，そう五里霧中の思いをはせながら，観光班の３人はアンケートを行うことになった。アンケートでは，意地悪なおじさんや面倒くさそうにしていたギャルには断られたものの，観光班メンバーの堪能なコミュニケーション力を発揮して，あっという間に目標としていた60枚，人数にすると約150人のアンケートをとることができた。

多くの人が快く協力してくださったのはとても助かった。その多くの人々が「チェックインをしてから時間をつぶすのが大変」という理由があった。地方空港ということで関空や成田に比べるととても小さく，そのため設置してあるお店の数が少ないためチェックイン後の１～２時間という長時間をつぶすのが苦痛で，アンケートでも「静岡空港はしょぼい」といった厳しい意見も目立った。その反面，「コンパクト」といった目線で見る方もいて，「駐車場はいくら泊めても無料だし，セントレアと違って搭乗までがとてもわかりやすい」といった意見もあった。私のように，空港＝一種の娯楽施設と思っている人には確かに物足りなさを口に出さずにはいられないが，実際のアンケートを取った人の数だけ見方があるということが判明して面白かった。

静岡空港調査後は，スポーツ合宿について調査を行った。市内の宿泊施設でアンケート調査を行い，また島田市内にあるスポーツ施設を実際に見学調査した。市がスポーツ合宿の誘致に力を入れており，建設中の新しいスポーツ施設の期待も大きいことがわかった。10月27日には島田市内でマラソン大会が行われるなど，これからの島田市のスポーツレジャーに期待ができそうだ，と思った。

実習最終日は現地調査をせず，島田市金谷から大井川に沿って北上する『大井川鐵道』に乗った。SLとアプト式列車に計３時間近く乗車した。多くの団体客や観光客で客車はいっぱいであった。なんやかんや言っても地理学・地域環境学専修に来ている以上は，大抵の人は鉄道好きで，３時間乗っていることも苦ではなかったようだ。「静岡に来てローカル線に３時間も乗るなんて，まあ地理学にでも入ってなければそうそう経験はしないであろう。SLにもそう乗る機会なんてないだろう」と思いながら，SLに乗ってこの実習調査は終了した。そしてこの実習調査の調査報告書の原稿提出に追われながら本文を記している。まるで終わりの見えない旅をしているようである。

（学部３回生）



蓬莱橋での集合写真

秋の日帰り巡検

京都日帰り巡検

山本佳代子

2012年10月28日，秋の冷たい雨の中，私たちは京都へ巡検に行った。電車の遅れにより時間通りに集まることはできなかったが，なんとか地下鉄鞍馬口駅に集合し，そこから下鴨神社へ向かった。

下鴨神社は世界遺産なだけあり，荘厳な雰囲気を醸し出していた。縁結びのご利益があるためか，神社では結婚式が行われていたのが印象的であった。こんな雰囲気のあるところで式を挙げたいものである。

次に出町桝形商店街へと向かった。商店街の入り口には有名な餅屋があり，大勢の人で賑わっていた。商店街の中は食べ物を扱う店が多く立ち並んでおり，食欲がそそられた。昼食は同志社大学の前で一時解散となり各自でとることとなった。

同志社大学の食堂はとても綺麗でメニューもお洒落なものであった。外観も寺のようで見た目でも京都の風情によく合っていた。

昼過ぎからは雨もあがり，肌寒さは残るものの歩きやすくなった。仙洞御所では女天皇の話を聞き，現在天皇の跡継ぎ問題で言い争っていることに疑問を感じた。また，御所の中には専属の警察が配置され，厳重に警備していることから，この場所がいかに重要なのかを感じ取ることができた。

さらに驚いたのは，鬼門の方角を避けるために建物の形を変え，猿の彫像を置いていることであった。風水や北枕といったように方角を気にする人は現代にもいるが，ここまでする人は今ではいないだろう。

最後に，今や京都のブランドとなっている御所南小学校を見学して，私たちは烏丸御池にある京都市まんが博物館を訪れた。そこは日本最古の小学校を改築し，新たに日本の文化の発信地として再利用していたところであった。

そのままではただ潰されるだけであった建物が再利用され，再び人々の交流の場として蘇ったというのはとても素敵なことだと感じた。悪天候ではあったが，楽しい一日であった。

（本学３回生）

京都御所にて集合写真

京都市まんが博物館

コース：地下鉄鞍馬口駅―上御霊神社―下鴨神社・糺森・河合神社―加茂川・高野川合流点―出町桝形商店街―相国寺―同志社大学―烏丸今出川（昼食）―仙洞御所―寺町―京都市歴史資料館―新島襄生誕地―行願寺―御所南小学校―京都市まんが博物館（解散）

角野麻莉子
地理学専修で過ごした３年間は楽しかったことばかりだと思います。巡検ではいろんな場所に行き，たくさんの思い出を作れました。先生方や同学年の皆さん，本当にありがとうございました。

貴志健司
地理学実習でみんなと呉に行ってよい経験になりました。授業でもみんなに助けてもらい，単位をとることができました。ありがとうございました。

小池清訓
地理学に所属するようになり，今まで旅行に行くことがなかったのですが，４年間でめっちゃ旅行できました！気のいいみなさんと過ごした時間は幸せでした。ありがとうございます。

坂元由梨
この４年間はあっという間に過ぎてしまいました。地理学の人達は皆良い人ばかりで，ここで過ごした時間はとても楽しかったです。中でも呉の巡検はいい思い出になっています。今までどうもありがとうございました。

角田静佳
ここでこそ経験できたことがありました。自分だけではできないような…そんな時間を過ごさせて頂きました。三年間お世話になりました。ありがとうございました。

田中優生
４年間の大学生活はあっという間に過ぎ去ってしまい，少しもの足りなさを感じています。地理学を学べたことは私にとって宝物です。みなさん，本当にお世話になり，ありがとうございました。

田邊知世
地理学専修に入って良かった。心の底からそう思います。先生方，地理学のみんな，３年間本当にありがとうございました。

研究ノート

遼寧省における多民族共生地域の食文化
—漢民族・満州族・朝鮮族の独自性と融合化—

李　巍

1. はじめに

中国東北部は満州族が先住民族であり，19世紀後半に華北地方から漢民族，朝鮮半島は朝鮮族が移住してきて，多民族共生地域となった。満州族は清朝の統治者であり，その食文化は漢民族や他の少数民族の食文化と融合して，現代中国の食文化に対して大きな影響を与えてきた。本稿は遼寧省の多民族共生地域を対象に，満州族と朝鮮族の伝統的な食文化の歴史とその現代的変容を，文化地理学の視点から明らかにすることである。他民族の調理法や新しい食材を積極的に取り入れ，応用し，新しい料理をどのように創作したのかを歴史文献とフィールドワークをもとに考察する。そのため筆者は，2011年８～９月に遼寧省西部の丘陵地にある北鎮市常興鎮瓦房村，遼寧省中部の遼河デルタに位置する大窪県栄興朝鮮族自治郷の朝鮮族農家30戸にアンケート調査を行った。また2012年８月中旬には，遼寧省北鎮市常興鎮の満州族の定期市（三斉市）での食材調査を実施した。これらの資料をもとに考察する。

2. 満州族の食文化史と満漢全席

満州族の庶民の料理と満漢全席に代表される宮廷料理ではその食材や調理法が大きく異なる。特に満州族の食の現代的変容を究明することは重要である。しかも満州族の食文化の形成には，冷涼乾燥した気候が深く影響している。

先住民は，主に漁撈，狩猟，畑作農業，牧畜に従事していた。“挹娄人”は豚肉を好み，雑穀を主食とし，“勿吉人”も塩を調味料として豚肉と食べた。“女真人”は小麦を主食とし，粉にして饅頭，炊餅（饅頭の一種），茶食（茶菓子）等にして食べた。野菜はネギ，ニンニク，ヒョウタンなどで，通常は塩漬けか味噌，漬制酸菜（白菜の塩湯漬け）にした。

清の入関で中国封建王朝の統治者となった満州族は，政治と戦争のため満州族社会を，駐防，屯墾，留守（都の警備の意）などの半軍事的社会組織に再編する。東北地方の満州族，北京および直省駐防満州族（京旗満州族），辺境地帯に屯墾する満州族の三つの社会が形成された。東北満州族の食文化は民族の伝統がより強く保持され，京旗満州族は文化水準が高く料理も洗練されている。山東の満州族食文化は伝統を保持しつつも，漢族や他民族の調理法と料理技術が融合している。

東北満州族の主食である麺類は様々な形状と材料から作られる。酸，酥，粘，凉に特徴があり，麦，トウモロコシ，コウリャン，粟，キビを加工した。様々な餑餑（点心）や打糕がある。また，小米飯（粟飯），高粱飯（コウリャン飯），黄米飯（黍飯），苞米楂子飯（トウモロコシとコウリャンの混合），八宝粥（米や豆類と干したナツメなどを煮た粥）など雑穀の種類が多い。満州族は粘り気の強いものを好み，糯米で作った満州餑餑が祭りや宴会には不可欠である。

東北満州族の副食は豚肉と羊肉が中心で，焼く，あぶる，煮込む，煮る，炒める，燻製，揚げる等の調理法がある。特に，焼く料理とあぶる料理に特色がある。そのほか，イスラムの影響を受けた羊のしゃぶしゃぶ料理も人気がある。野菜も種類が多い。各家庭は白菜，キュウリ，カラシナなどを塩漬けにする。白菜から作る酸菜は満州語で布縮結と言う。それを調味料的に用いて，煮込み料理，炒め料理，サラダ，餃子，スープにいれる。現在でも東北地方の満州族と漢族は，秋・冬にはほとんどの家庭で酸菜作りをする。

山東満州族の主食は麺類と粟が中心で，トウモロコシ，麺条（手打ちラーメン），饅頭（蒸しパン），烙餅，煎餅，小米粥（粟粥），野菜粥なども食べる。調理法は，煮込み，煮る，揚げる，炒める，蒸す，飴煮が中心で，この地域の漢民族の料理に近いが，満州族の伝統習慣も継承されている。

京旗満州族の日常主食は麺類が中心で，饅頭，麺条（手打ちラーメン），餃子，烙餅，包子（まんじゅう），餛飩（小麦粉皮に包み蒸したもの），肉餡餅(肉餡を包んで焼いたもの)，葱花餅（葱入りの焼いた餅），糖餅（砂糖餡を包んで焼いた餅）など多岐にわたる。ふだんの料理は，燜（ふたをして，強火で煮る），煎（鍋に油を少し入れ，加熱してから材料を入れ，表面がきつね色になるまで焼く），煮込む，煎じる，揚げる，炒める，あぶるなどの調理法が多い。代表的料理は，麻婆豆腐，煮白肉片（豚肉の煮込み料理），木犀肉（玉子，キクラゲと豚肉を炒める料理），拌窮三様（胡麻ドレッシング，ニラの花茎と若い蕾の漬物，唐辛子味噌）等である。また，京旗満州族は蜜餞（シロップ漬けにした果物）と点心を得意とした。様々な満州点心は満州族の中国料理に対する大きな貢献である。

満漢全席は清時代に満州族の伝統料理と漢民族料理の中で高価で珍奇な食材をとりいれた宮廷料理である。中華料理の中で最も高級な料理とされ，満州族の食文化の華であり，多民族の食文化の交流と融合の反映である。ただし，満州料理は，漢民族料理ほど種類は多くない。満漢全席の特徴は，山八珍，海八珍，禽八珍，草八珍といわれる海や山の珍奇な食材である。表１は「海八珍」を料理名とその内容・調理法をまとめたものである。

その特徴は次の４点に要約できる。①栄養豊富な薬用食材である。②満漢全席の個々の料理は中国の代表的高級料理である。③中華料理の南菜と北菜の双方が含まれる。南菜は福建・広東と四川の料理，北菜は北京料理と山東料理が中心である。東北地方は様々な貴重な食材の主要産地である。例えば，魚籽（魚の卵），鮑，干貝（貝柱の乾燥品）等の食材を中心とした料理は人気が高い。黒龍江省はチョウザメの産地で，魚籽味噌，紅焼魚籽等がある。水産物が豊富な大連は鮑をはじめ豊富海産の魚介類を材料にした海鮮料理に特色がある。満漢全席には清真回族の料理法も取り入れられた。④調理法では満州族が煮込む料理，漢族は炒め料理を中心とする。

表１　満漢全席における海八珍

種類	内容	満漢全席の料理	原材料	調理法	料理の分類
魚唇（魚皮）	コラーゲンが高い	白扒魚唇	魚皮・葱・生姜等 料酒・醤油・鳥のスープ	醤油などの調味料でとろ火で煮込む	広州料理
魚翅（ふかひれ）	蛋白質が高い	紅扒魚翅	ふかひれ・しいたけ・ハム・冬のたけのこ 醤油・料酒・コンソメスープなどの調味料	ふかひれといたけとハムを煮込む	山東料理
海参（なまこ）	補血すること	焼素海参丸	なまこ・豚肉・玉子・葱・黒慈姑など 醤油・料酒・塩などの調味料	丸形にしたなまこを揚げて葱と炒める	満漢（宮廷）料理
魚肚（にべ）	高級蛋白	扒魚肚卷	にべ・葱・生姜など 醤油・料酒・鳥のスープなどの調味料	にべをとろ火で煮るあと、 煮たにべと葱等の調味料を炒める	広州料理
魚骨（魚の軟骨）	カルシウム	紅焼魚骨	黒魚骨・醤油・料酒・塩・酢等 小麦粉を発酵させてつくった黒い甘味噌	黒魚骨を炒めあと、調味料で煮込む	満漢（宮廷）料理
魚籽（魚の卵）	ビタミン	紅焼魚籽	魚の卵・赤唐辛子・生姜・にんにく・葱 醤油・料酒・塩・胡椒・砂糖・トウシキミ	魚の卵、葱と赤唐辛子等を炒め後 醤油などの調味料でとろ火で煮込む	東北料理
鮑魚（あわび）	腫瘍を抑える	天香鮑魚	鮑・冬のたけのこ・ハム 葱・生姜・にんにく・醤油・料酒・塩など	葱・生姜とにんにく等を炒め後 鮑と調味料で煮込む	四川料理
干貝（貝柱）	コレステロールを下げる	紅焼赤貝	貝柱・赤唐辛子・生姜・にんにく・葱 醤油・料酒・塩・胡椒・砂糖・トウシキミ	貝柱・葱と赤唐辛子等を炒め後 醤油などの調味料でとろ火で煮込む	四川料理

(趙栄光『満漢全席源流考述』をもとに筆者作成)

3. 朝鮮族の食文化史

朝鮮族は現在も民族的食文化を色濃く保持し，食の栄養バランスや薬効を重視し自然食志向である。その一方で，朝鮮族以外の優れた食文化も積極的に取り込んできた。

朝鮮族伝統の主食は米飯と粥である。醤湯（味噌汁）と泡菜（漬物）が副食として必ずつく。朝鮮族は朝鮮半島で，粟，水稲，高粱，大豆，大麦，トウモロコシ等の穀物と，白菜，大根，ジャガイモ，キュウリ，カボチャ，葱，ナス，唐辛子等の野菜を栽培していた。1930～1940年代までに中国東北部に移住してきた朝鮮族の食文化には大きな変化はなかった。図們江や鴨緑江流域の国境地帯に定住した朝鮮移民は，咸鏡道や平安道出身者が多い。その後，黄海道，慶尚道，全羅道，忠清道，江原道などの朝鮮中・南部からも内陸部に移住者がはいっていった。吉林省延辺朝鮮族自治州の朝鮮族は20世紀前半に稲栽培を始める。しかし移住地の交通条件は悪く，中国語も話

せなかったため，漢民族や他民族との交流はほとんどなく，食生活も伝統が保持された。

朝鮮族の主食は米飯であるが，様々な麺類も食べる。朝鮮語で麺をクッスという。クッスはシルクッス（素麺のように細い麺）とカルクッス（手打ち麺）に大きく分かれる。①使う材料によって，メミルクッス（蕎麦粉で作った麺），ミルクッス（小麦粉で作った麺），ガムブンクッス（ジャガイモを使った麺），ゴグマクッス（サツマイモを使った麺），ガンネンイクッスト（トウモロコシを使った麺）に分類される。②調理法では，冷麺，温麺，混ぜて食する麺に分かれる。冷麺は朝鮮民族の代表な麺類である。

朝鮮族の日常の副食は，泡菜（漬物），醤湯（味噌汁），山菜など野生植物，犬肉などである。そのほか，豚肉を多用し，卵，魚のほか，頻度は少ないが鶏肉も利用する。中国に移住してからは漢民族の野菜栽培法を学び，利用するようになった。香菜（中国パセリ），芥菜疙瘩（根芥菜）などである。現在は中国南部からの野菜品種が東北地方に入り，油菜（チンゲン菜），小松菜，空心菜等も食べるようになった。

朝鮮族が漢族から学んだ炒める調理法は日常食に浸透し，野菜と豚肉を炒める料理は現代の朝鮮族の食生活の一部となっている。

現代の朝鮮族は米が主食あるが，小麦粉で作った漢民族が好む餃子もよく食べる。とりわけ正月に餃子を食べる慣習は漢民族の影響である。ただし伝統的副食のキムチ・漬物類は，現在も家庭で頻繁に利用されている。

4. 遼寧省農村における満州族と朝鮮族の食の実態

筆者の遼寧省における北鎮満州族自治県や大窪県栄興朝鮮族自治郷で実施したアンケートから，今日の満州族と朝鮮族の食文化の実情と東北地方民族共生地域の農村部における食生活様式を明らかにする。

(1) 北鎮満州族自治県の主食

高粱が主食だが，トウモロコシ，小麦，粟も副次的に食べる。かつては，小米飯（粟飯），烙餅，麺条（手打ちラーメン）を常食としていた。現在は米を多く食べるが，雑穀粉食の伝統は今も残っている。穀物は，小麦，トウモロコシ，コウリャン，粟，黍を紛にして様々な餑餑（点心）にする。手打ち麺条も食べる。小米飯（粟飯），高粱飯，黄米飯（黍飯），苞米楂子飯（トウモロコシとコウリャンの混飯），豌豆粥（エンドウマメ粥），小米粥，苞米楂子粥，二米粥（米と粟を混ぜた飯），八宝粥などが挙げられるが，最も食べられるのは高粱粥と苞米楂子粥である。

祭日には黄米（もちキビ）糕や黄米豆餡餑餑（もちキビ団子）を作る。沙琪瑪（もち米の中に白砂糖を包み込んだ団子）・柿糕などの糕点（菓子類）は他民族にも人気がある。いずれも粉食である。

(2) 日常の副食

瓦房村では白菜，ナス，キュウリ，ネギ，ピーマン，大根，インゲン，カボチャなどの野菜が栽培されている。この地域特有の料理には，地鶏炖野生茸（地鶏と野生茸を煮込む料理），酸菜粉条（白菜の漬物と太い春雨を煮込む料理），東北乱炖（さまざまな野菜と豚肉を煮込む料理）がある。満州族の料理は豚肉と羊肉が中心で，焼く，あぶる，煮込む，煮る，炒める，燻製，揚げる等の調理法があり，特に，焼く料理とあぶる料理が中心である。満州族が漁撈と狩猟から農耕への移行とともに，煮込む料理が中心になってきた。ただし，農村部でも羊肉のしゃぶしゃぶは人気がある。

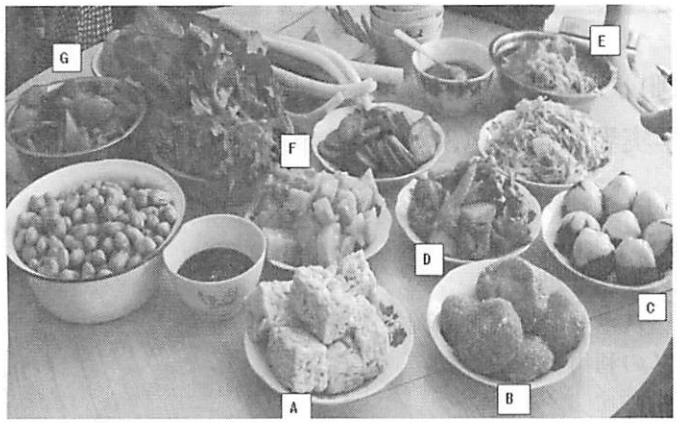


写真１　満州族の家族料理

A：沙琪瑪　B：かぼちゃ餅　C：蘇葉餅　D：地鶏炖野生茸
E：酸菜粉条　F：皮凍　G：東北乱炖

(3) 特別料理

干し豆腐料理がこの地域の特色となっている。干し豆腐とねぎの包み料理は，自家製の大醤（大豆味噌）と一緒に付けて食す。特に，東北乱炖（さまざまな野菜と豚肉を煮込む料理）に干し豆腐は欠かせない。

この地域は低い山が迫り，現在はブドウを中心とした果樹園芸に特色がある。畑作は雑穀を主とし，特にコウリャンやトウモロコシが多いが，野菜は意外と少ない。伝統的な満州族の食文化は保持されているが，餃子や炒め料理に，漢民族の食文化との融合がみられる。

(4) 大窪県栄興朝鮮族自治郷の食事

遼河デルタに位置するこの農村の朝鮮族の食文化は，民族的特徴を保持する部分が満州族より強い。現地調査の結果では，朝鮮族のほぼ６割以上が米飯を日常の主食としていた。また，漢民族が旧正月などハレの日に食べる餃子は頻繁に食べる。漢民族の野菜栽培の方法を学び，同じ調理法を用いて，野菜と豚肉を炒める料理が多い。朝鮮族の主食は伝統的な米飯を中心とするが，副食は漢民族影響が主食より顕著である。朝鮮族は元来米飯以外，麺類を常食としている。朝鮮族は漢民族の小麦粉料理を主食に取り入れ，餃子，肉まん，蒸しパン，揚げパンなどでよく食べている。

写真２　朝鮮族の伝統料理

A：キムチ　B：漬物（桔梗）　C：犬肉料理　D：前菜
E：冷麺　F：木犀肉　G：お餅（月亮餅）

5. まとめ

遼寧省の漢民族・朝鮮族・満州族間の食文化交流の特徴をまとめると，伝統的な生業が異なるため，その食文化も独自な特徴をもつ。しかし，長年の多民族の接触・共生で互いに食文化に大きな影響を与えてきた。

食材では主食は各民族の生業や嗜好もあり保守的である。副食は各民族が積極的に他の食材を受け入れ，それぞれの民族が好む味付けに変えて料理の種類を豊富にしてきた。また，食材以外では，調理法や調理道具などの交流が食習慣の変化を大きく変化させた。例えば満州族の伝統料理である火鍋料理（しゃぶしゃぶ料理）は，長い歴史を有する今日の中華料理に対して大きな貢献をした。筆者は過小評価されやすい満州族の料理の現在的意義を強調したい。

（本大学院博士課程前期課程２回生）

【参考文献】

朝倉敏夫・石毛直道（監修）『世界の食文化―韓国』，農山漁村文化協会，2005
石毛直道編『論集　東アジアの食事文化』，平凡社，1985
尹瑞石『韓国の食文化史』ドメス出版，1995
王建中（主編）『東北地区食生活史』黒竜江朝鮮民族出版社，2004
呉正格「満漢全席史釈」揚州大学学報，2011
田中静一『一衣帯水―中国料理伝来史』，柴田書店，1987
趙栄光『満漢全席源流考述』昆侖出版社，2003
郎秀萍『満族家庭常用食譜』広東満族資料汇集，1995

中川夏姫
卒業する今になり，高校３年生のときに，この専修に進学すると決めて本当に良かったなと改めて思いました。大変だった測量も実習も，卒論なども，終わってみればあっという間で，一瞬にして駆け抜けた４年間でした。ここでの数々の出会いは，一生の宝物です。お世話になりました，ありがとうございました。

西井千恵
地理学専修に入って，様々な場所へ訪れたり，たくさんの人に出会えて本当に貴重な経験をすることができました。先生方をはじめ，みんなと一緒に過ごすことができて幸せです。ありがとうございました！

日野翔太
地理学専修での４年間は，多くの経験を積んで知識を得た，好きなことを学べた濃い時間でした。この学びを活かし，これからの人生突き進んでいきます，本当にありがとうございました。

藤森麻希
地理学専修に入って，知らなかった場所に行ったり，いろいろな人にお会いして，私は少したくましくなれた様に思います。ほんとうにありがとうございました。

松岡美佳
４年間お世話になりました。地理学専修ではフィールドワークを通してたくさんの場所に行き，たくさんの出会いがありました。そして多くの事を学ぶ事ができました。先生方を始めたくさんの人に支えられました。本当にありがとうございました。

森　羊亮
ずっと地理が好きで念願の地理学教室に入る事ができて，本当によかったです。インドアな私をアウトドアな世界へ連れていってくれた地理学に感謝します。４年間関わった全ての人々へ本当にありがとうございました。

学窓から

地理学というパスポート

奥野　晶士

僕にとって地理学・地域環境学専修で学んだことは社会に出るためのパスポートだと思います。地理学では，優れた行動力を活かして，フィールドワークをして様々な人達と関わることができ，地域の特性についてもじっくりと調べることができました。この貴重な体験が社会に出た時に役に立つものと確信しています。

３回生の呉の実習調査では，呉駅の南に位置する大型商業施設「ゆめタウン」の周辺やフェリーターミナルなどでアンケート調査を行いました。一番印象に残っていることはアンケートの質問内容以外にも多くの事を教えていただいたことでした。例えばフェリーターミナルには，フェリーを待っている人々だけではなく，買い物の休憩場所としてよく利用している人も多いこと，また若い世代が広島市内に買い物に出かけていること，などが分かりました。友達と広島市内へ遊びに行き，そこで服を買うことが多いとのことでした。事前に調べてきたことや予想してきたこととは違う，想定外な事実が分かることは，現地調査の醍醐味であることも痛感しました。

就職活動で地理学と言っても，面接官の方にはそれがどのような学問か理解してもらえないようでした。しかし「広島県呉市の都市開発や商店街の活性化について調査しました」と言うと，関心を持って話しを聞いて頂き，就活に成功しました。地理学では幅広い研究テーマがあるので，自分の興味に合った事を進んで勉学・研究することができます。私は１回生の時にスーパーの折込み広告を調べ，地域や曜日の特性がどのように表れているのかを調べました。土曜日は一週間のうちで一番広告量が多く，スーパーの広告から車やマンションの広告などありとあらゆる広告が入っていました。２回生の時には北千里駅から関大前駅の駅の看板広告を調べました。実際に地図で広告主の所在地を確かめると，病院の看板が多いことや離れた駅の周辺広告もあることなどが分かりました。３回生では広島県の呉市で実習調査をしました。４回生の卒論では千里中央について調べました。

こうした大学４年間で地理学を通じて学んだことや経験は，社会に出てこそ活かせるものと思っています。優れた行動力，チームワークがキーとなる共同調査の体験，地域に対する深い愛着・洞察力…これらはどれも社会に出てからも役立つものと確信しています。地理学・地域環境学専修卒業という誇るべきパスポートを持って次の一歩を踏み出します。

（本学４回生）

『静岡県島田市・川根本町の地理』2013年３月末　刊行
（地理学・地域環境学実習報告書（37）2012年度）

Ⅰ．地域の概観
Ⅱ．大井川中流域の自然環境と川根本町の茶業
Ⅲ．金谷宿場町における歴史的景観の変遷と現状
Ⅳ．島田市における新しい観光要素―スポーツ合宿と静岡空港―
Ⅴ．島田市におけるコミュニティバスの利用と生活行動
Ⅵ．島田市の中心市街地の変遷と再生

院生・学部生の業績(2012.1～12)

【発表等】

張　旭．12月１日．関西大学史学地理学会2012年度大会（関西大学千里山キャンパス）．「屋根における装飾物の考察―台湾を中心に」

牛　鍇．12月１日．関西大学史学地理学会2012年度大会（関西大学千里山キャンパス）．「寿光市における野菜生産と流通の現状」

張　立宇．12月１日．関西大学史学地理学会2012年度大会（関西大学千里山キャンパス）．「蜀地における都城の空間構造」

所　夏弥．12月１日．関西大学史学地理学会2012年度大会（関西大学千里山キャンパス）．「我が国の単身高齢世帯の居住―堺市．神戸市について―」

舟越寿尚．２月13日．第６回東アジア沿海科研研究集会（知多郡南知多町師崎荘）．「呉－軍事依存都市からの転換－」

舟越寿尚．12月１日．関西大学史学地理学会2012年度大会（関西大学千里山キャンパス）．「シドニーの多文化主義と都市活性化－人種的または性的マイノリティの地域コミュニティー」

董　振江．11月４日．第８回東アジア沿海科研研究集会公開シンポジウム（札幌大学）．「北海道稲作発展史の特質と研究の展望―中国東北地方の稲作展開からの照射―」（野間晴雄との共同発表）

董　振江．11月18日．2012年度人文地理学会大会（立命館大学衣笠キャンパス）．「中国東北部稲作社会の形成と現状―黒竜江省方正県安楽村を事例として―」

齋藤鮎子．10月27日．日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI（関西大学千里山キャンパス）．「B級グルメ宇都宮餃子と浜松餃子の発達史」

于　亜・齋藤鮎子．10月27日．日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI（関西大学千里山キャンパス）．「皮から作る水餃子」

齋藤鮎子．11月18日．人文地理学会大会2012年度大会（立命館大学衣笠キャンパス）．「浜松市における餃子の移植・普及に関する地域学的考察」

齋藤鮎子．12月８日．第99回関西大学地理学・地域環境学研究会例会（関西大学千里山キャンパス）．「東アジアとその周縁における粉食文化研究の系譜と課題―戦後日本における研究を中心に―」

【論文等】

野間晴雄・松井幸一・齋藤鮎子　共著．９月１日．『關西大學文學論集』，第62巻第２号．「『徐霞客遊記』の行程・観察記録の書誌的検討と史料的意義―福建省歴史GIS構築のための基礎的検討（１）―」

齋藤鮎子．９月20日．「浜松餃子と産業地域社会の関係性に関する予察」，『千里地理通信』第67号，関西大学地理学研究会

野間晴雄・森　隆男・于　亜・齋藤鮎子　共編．10月27日．『粉もんから東アジアがみえる―餃子・麺類・饅頭―』日本学術振興会ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室へ～KAKENHI（講義資料・図録集）

齋藤鮎子．12月２日．「ティラピア―東南アジアのタンパク源として―」（『ベトナム紅河デルタとラオス』野外歴史地理学研究会）

齋藤鮎子．2013年２月１日．「食と地域の対話―アジア食文化研究事始め―」．月刊『地球』，通巻401号（総特集　野外の地理学と地域との対話）．108－114頁

野間晴雄・松井幸一・齋藤鮎子　共著．2013年３月31日刊行予定．「『徐霞客遊記』の行程・観察記録のデータベース作成とその地図化―福建省歴史GIS構築のための基礎的検討（２）―」，『東アジア文化交渉研究』第６号

徐　笠凡
あっという間にもう関大卒業。この二年間，皆さまのおかげで地理学の魅力が分かり，充実した時を過ごせました。修論が大変でしたが，親切な木庭元晴先生や研究室の仲間に助けていただき，無事に提出することができました。今まで本当にありがとうございました。

竹下裕隆
大学３年から通い始めた関大ですが，いよいよ旅立つことになりました。大学院生活では，金魚の研究，広島県呉市での実習調査，そしてなにより中国人留学生との交流が私を大きく成長させてくれました。恵まれた環境下で勉学に励めたことを本当に幸せに思います。

張　璽
この二年間，高橋誠一先生から種々のアドバイスをいただき，同僚の間には常に和やかな雰囲気が漂っていました。また，在学期間に現地調査などに行き，多くの経験を積むことができました。関大での勉強生活は嬉しかったです。皆様，ありがとうございました。

廣田琢也
まずはじめに，ご指導いただいた先生方へ感謝の意を表します。そして同期，先生方と後輩の皆さんに支えていただき，修士課程を修了することができました。在籍した７年間の経験を職場で活かせる様，過進していきたいと思います。

李　巍
この二年間，野間晴雄先生の熱心なご指導により，非常に満足のいく研究生活を送ることができました。また，研究室メンバーにも恵まれ，その何事にも全力で取り組むという姿勢は，私の人生に大きな影響を与えました。皆さま，本当にありがとうございました。

■M１・D中間発表会

2012年９月29日（土）12時40分～17時40分まで地理学・地域環境学実習室にて行われた。M１の発表者は，牛鍇，所夏弥の２名，Dは齋藤鮎子，張旭，張立宇，董振江の４名，なお廣田琢也（M３），李魏（M２）は７月14日（土）に行われたM２中間発表会を病欠したため，この会で修論構想を発表した。

■地理学・地域環境学実習

2012年10月９日（火）～13日（土）にかけて，静岡県島田市川根本町にて調査実習を行った。指導教員は伊東，野間。TA２名，院生４名，３回生14名で実施。調査内容は，自然農業，中心市街地の再生と商業，観光産業，市民の生活行動，歴史的景観などの項目で，2013年３月末に調査報告書『静岡県島田市・川根本町の地理』が刊行された。

■「ひらめきと☆ときめきサイエンス」事業の開催

2012年10月27日（土）10時～16時まで，関西大学オープンキャンパスの日に合わせて，地理学・地域環境学実習室と１学舎１号館の実験教室で開催された。これは，日本学術振興会科学研究費の社会還元事業の一環として，高校生に学問のおもしろさをアピールする試みである。「粉もんから東アジアがみえる―餃子・麺類・饅頭―」のタイトルで，ミニ講義４つと餃子作り実習を実施した。野間晴雄「東アジアの穀物と粉食の技術」，齋藤鮎子「B級グルメ宇都宮餃子と浜松餃子の発達史」のほか，日本史・文化遺産学専修の森　隆男教授と中国人講師をまじえて水餃子作りの実習をおこなった。本事業は科学研究費・基盤研究（A）「環東シナ海・環日本海沿岸域の文化交渉と歴史生態をめぐる学術的研究」の成果のなかで，東アジアの食文化の交流として餃子を取り上げた。前半は一般公開としたため，父兄や高校生など60名近くの参加があった。実習には兵庫県立舞子高校，関西大学第一高校の１～３年生７名が参加した。

■秋の日帰り巡検報告

2012年10月28日（日）に秋の日帰り巡検が開催された。“洛北から洛中への街並みの推移と学区・地域社会”をテーマに下記コースをまわり，大学院生が要所にて説明を行った。また，今回は京都とゆかりの深い卒業生に多数ご参加いただき，各所をご説明を頂いた。教員４名，OB５名，学生46名が参加し，OB方の解説も相まって秋の京都の魅力を堪能することができた。コース：地下鉄鞍馬口駅―上御霊神社―下鴨神社・糺森・河合神社―加茂川・高野川合流点―出町桝形商店街―相国寺―同志社大学―烏丸今出川（昼食）―仙洞御所―寺町―京都市歴史資料館―新島襄生誕地―行願寺―御所南小学校―京都市まんが博物館（解散）。教員担当　野間晴雄

■地域調査士講習会・専門地域調査士講習会

2012年11月25日（日）９時～18時10分まで，第二学舎A502教室にて，（社）日本地理学会資格専門委員会主催，地域調査士講習会が開催された。当教室からは学部生，OBら７名が受講した。

■地理学・地域環境学研究会例会

2012年12月8日（土）15時～8時まで第１学舎１号館A301教室にて，地理学・地域環境学研究会例会が開催された。M１より島田市調査実習報告がなされたのち，齋藤鮎子（博士課程後期課程）「東アジアとその周縁における粉食文化研究の系譜と課題―戦後日本における研究を中心に―」，西岡尚也（大阪商業大学）「地理教育の役割について考える―これまでの私の経験から―」，伊東　理（本学教授）「スーパーシティ　オークランドのめざすところ」の発表が行われた。例会終了後は１階カフェテリアにて懇親会が開催され，現役生ならびにOBからも多くのご参加をいただき，親交を深める良い機会となった。

■教員の国外出張　2012年９月～2013年３月

木庭元晴：2012年11月，ロンドン・パリ。私費。

伊東　理先生，人文地理学会2012年度（第12回）学会賞受賞

2012年度人文地理学学会賞の学術図書部門にて伊東　理先生が受賞された。受賞された書籍は，以下の学術書である。『イギリスの小売商業　政策・開発・都市―地理学からのアプローチ―』関西大学出版部，2011年。

なお，この学会賞は第５回（2005年）に高橋誠一先生が，第11回（2011年）に野間晴雄先生が受賞されており，関西大学地理学教室では２年連続３回目の快挙である。

野間晴雄：2012年11月26日～29日　ベトナム，ハノイ。第４回国際ベトナム研究者国際会議での招待講演。

■2012年度卒業論文優秀者表彰

卒業論文優秀論文賞　田中優生

「阿波･大阪･木更津における狸文化の伝播とその関係性」

卒業式当日に学部長表彰がある予定。

■外国研究者の訪問

2012年10月31日（水）関西大学アジア文化研究センター（CSAC）第15回研究例会にて，地理学教室OBでもあるTran Anh Tuan氏（ベトナム国家大学ハノイ理科大学地理学部准教授・CRGセンター長）が*GIS in Vietnam and database: Its development and contemporary topics*というタイトルで発表をされた。そのあと，11月１日～６日まで自らも研究協力者である東アジア沿海科研による北海道での集会・現地調査に参加された。

１日には函館市地域交流まち作りセンターで，*Mountain Frontiers in Vietnam: Landscape Ecology, Agriculture and Development*の発表をされ，その後，江差，長万部，岩内，余市，小樽，札幌，帯広に伊東・野間教授らといっしょに奥様も同伴で旅行，11月９日に帰国された。

■第８回東アジア沿海科研の研究集会

日本学術振興会の科学研究費研究代表 野間晴雄による研究集会が11月１日～４日まで，23名のメンバーが北海道に参集して行われた。うち関西大学の地理の教員・OB・OGが９名も含まれる。

11月４日には札幌大学でシンポジウム「歴史実体としての周縁―北海道・内と外からの視点―」が実施され，60名以上の参加者があった。

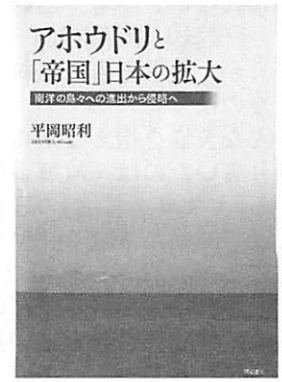
基調講演：桑原真人（札幌大学学長）「内国植民地としての北海道」，講演：平井松午（徳島大学大学院ソシオ・アート・アンド・サイエンス研究部・教授）：幕末期の蝦夷地警衛と明治期の北海道屯田政策，董　振江（関西大学大学院・博士後期課程）・野間晴雄（関西大学文学部・教授）：北海道稲作発展史の特質と研究の展望―中国東北地方の稲作展開からの照射―，中俣均（法政大学文学部・教授）「周縁の島への贈り物―沖縄からの視点」，コメント：山田誠（龍谷大学文学部・教授），朴賛弼（法政大学デザイン工学部・助手）

新刊紹介＜南島ゆかりの著書２冊刊行＞

関西大学ゆかりのお二人のライフワークというべき大著が相次いで刊行された。専任の高橋誠一教授の『日本と琉球の歴史景観と地理思想』（関西大学出版部，2012年）と，関西大学地理学専攻の卒業生（1973年学部卒，75年M修了，78年D修了）の平岡昭利下関市立大学教授の『アホウドリと「帝国日本」の拡大―南洋の島々への進出から侵略へ―』（明石書店，2012年11月）である。

前者は『琉球の都市と村落』（関西大学出版部，2003年）の続編ではあるが，日本と琉球の景観要素の比較や地理思想の伝播・相互交渉に重点がある。方格地割，石敢當，長崎唐人屋敷，日本の天妃信仰などを扱い，東アジアのなかの飛鳥，風水思想と紫香楽宮，奄美大島龍郷町や古宇利島などの新しいフィールドが加わるとともに，前著でも扱った今帰仁や首里でも新しい知見が披露されている。

後者は太平洋の絶海の孤島である沖縄県大東諸島の開拓を関西大学の修士論文でとりあげた著者の，島嶼研究40年の帰着点となった研究の集大成である。流人の島八丈島出身の玉置半右衛門はヨーロッパで需要のあった羽毛として，鳥島や小笠原諸島で大型海鳥のアホウドリを捕獲採取して巨額の富を得，さらに大東諸島にも触手を伸ばす。南洋諸島の開拓の先駆はバードラッシュであり，資源を取り尽くすと更なる資源を求めて空間的拡大をし，グアノ（鳥糞）やリン鉱という資本主義的資源へ移行することを論じた。



沖縄ブーム，近隣諸国との領土問題，いずれも現在の日本でホットな話題である。そんな時流には棹ささない著者たちが，長年の地道な研究で温めてきたシナリオが一気に開花した記念すべき著書である（本学教授　野間晴雄）。

随想

「伝統」とは何か

山本俊一郎

「伝統」とは何か。伝統的工芸品産業地域の調査に取り組むにあたり，いつも頭から離れない難問である。辞書でひも解くと「ある集団・社会において，歴史的に形成・蓄積され，世代をこえて受け継がれた精神的・文化的遺産や慣習（大辞林第三版　三省堂）」とある。受け継がれた精神とは何か？受け継がれた文化とは何か？人類学や社会学では「創られた伝統」のように伝統の創出をめぐる議論や「文化」「慣習」との違いに言及する議論がみられるが，定義を定義が必要な言葉で塗り固められていて，一向に核心にたどり着けない言葉のひとつだとつくづく思う。だから，具体的な解を求めることに意味はなく，「伝統」に対する人それぞれの解釈があってそれでいいじゃないかと思うのだが，ふと気がつくと自分なりの「伝統」とは何かを考えてしまうのだ。

私が伝統的工芸品産地の調査を始めたのは，大学院博士後期課程の時で，東日本大震災の津波によって壊滅的な被害を受けた宮城県石巻市の雄勝硯産地が始まりだった。その後，いくつかの産地をめぐり，京都の京鹿の子絞り産地を調査した際に上記の難問は私を深く悩ますこととなる。

京鹿の子絞は絹糸で布を括り，防染個所を作りながら，柄を描き出す京都の絹製品の総称である。当該産地は1970年代前半をピークに生産量，従業員数が急減する。その後，産地は安価な輸入品の流入に対してコストダウンをはかるために，労働集約的な加工部門を中国に依存するようになった。特に多大な労力と時間を要する括り工程は，その大半を中国に依存している。日本を代表する京都の伝統的工芸品でさえ，もはや京都内，国内では生産できない状況にある。そのような現状のなか，京都産地は企画，デザインを重視することで，製品の付加価値を高めようとしている。「Made in Kyoto」から「Produce by Kyoto」へ。近年話題の携帯電話Apple製のiphoneに目をむけると，本体裏面には「Designed by Apple in California　Assembled in China」と書いてある。なるほど，京都産地の進むべき方向性は時代の潮流かもしれない。でも，このような経営戦略の転換期において，「伝統」や「京都」が有する価値は維持できるのだろうか？そもそも「伝統」や「京都」が有する価値とは何なのか？

そんな苦悩を抱えながらも，朧気ながらひとつの答えに辿り着いたのは，故郷香川県小豆島で醤油を作り続けている「ヤマロク醤油」の５代目社長と出会った時であった。江戸時代から続く「ヤマロク醤油」は，2009年に醸造用の木桶（杉樽）を新たに７本設置した。約150年前から使われ続けている既存の木桶に住む多種多様の菌類を新桶に移り住むのを見守りながら，３年後にようやく初出荷に至っている。この新しい木桶一本で乗用車が買えるとのこと。売り上げが好調なのだろうと推測するものの，家族経営である蔵元の設備投資額としては大きな負担となる。なぜこのような多額の設備投資を行ったのか？それにはいくつか理由があるが，まずは年季の入った木桶がその寿命を迎えつつあり，交換しなければいけない時期にある点があげられる。くわえて，現在醸造用の大型の木桶を生産できる業者は全国で唯一「藤井製桶所」しか残っておらず，その会社の職人も高齢化がすすみ，今木桶を発注しておかないと数年後にはもう設置できなくなる背景があった。だが，本当の理由は別のところにある。社長は言う。「私は今先代達が残してくれた木桶のおかけで醤油造りをすることができている。しかし，新たな木桶を設置し，古い木桶に住み着いた多くの菌を移しておかなければ，私の孫やその孫たちに私と同じ環境を引き継ぐことはできない。私が引き継ぐことのできた環境を子孫にも同じように残していくためにも，たとえ多額の借金を抱えることになろうとも，今新しい木桶を入れて，彼らに残すよう努めていくことは私の使命だと思う」と。

同じような語りは，小豆島の隣の島，豊島でも聞かれた。豊島は1990年代，国内最大級の産業廃棄物の不法投棄事件が起こった島として全国的に知れ渡った。事件を起こした不正業者とその行為を野放しにしてきた香川県を相手に，地域住民は放置された大量の産業廃棄物の処理に向けて長い間住民運動に取り組むことになった。最終的に香川県から謝罪と残存した産業廃棄物処理実施の確約を得て，住民運動は収束していくのだが，この住民運動に深くかかわった方の語りに世代を超えて受け継がれる精神の一つをみた気がした。「私は美しい海と山に囲まれた島で育った。このような環境を100年後，200年後の島民にも同じように残していかなければならない。だからこそ不法投棄された廃棄物は私たちの代で処理し，以前の美しい島に戻しておかなければいけない。そうしないと未来の島民に申し訳ない」。

これらの二人の発言から見えてくるもの。それは未来を見据える時間の長さが遠大ということだろう。「伝統」とは遠い未来の誰かに対して，現在の環境を受け継ぐために維持しようとするその「想い」なのだ。その「想い」が代々受け継がれることにより，結果的にその想いが具現化された事象が継続されていくのだ。

産業地域を支える経営者や行政をはじめとする関係者にこのような遠い未来を見据えた視点，考えを持った人がどれだけいるのだろうか？産地の衰退傾向とこの視点の希薄化は密接に関係している気がする。無形資産の本質とは，案外こういうところに帰結するのではないかと思いながら，今日もまた「伝統」とは何かについて思い続けている。

（大阪経済大学准教授・本学非常勤講師）

千里地理通信　第68号
2013年３月19日　発行
関西大学地理学研究会
〒564-8680　吹田市山手町3－3－35
関西大学文学部　地理学・地域環境学教室内
編集担当：野間晴雄　齋藤鮎子
TEL：06-6368-1121（内線 大学院生室：4890）
e-mail：moto@kansai-u.ac.jp
郵便振替：大阪00970－4－81149